

実施日：6月16日～1月25日	
教科等：総合的な学習の時間	
取組名：ROSE タイム	
対 象：全学年	実施場所：各教室
ア ねらい ・ 主体的・対話的な学び合いを通して主体性を育成し、自己肯定感を培いよりよい人間関係を育む。 ・ よりよい人間関係の構築や人間関係の活性化に向け、「伝える力」を伸ばすことで、技能的側面からのアプローチとしてのコミュニケーション力を高める。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 ・ 各教室で異学年での数学の教え合い学習を行う。 ・ 教え合いのグループは3人を基本とし、教える人（チューター）と教えられる人（ST）に分かれて行う。 ・ グループ分けは事前に成績を基に分け、さらに各担任を中心に人間関係の調整をして設定する。 ・ 学習の進行及び支援は基本的にチューターに任せ、各教室の担当教師は、机間巡視をしながら生徒を見守り、必要に応じて助言を行う。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 取組について、ホームページにて公開する。また、オープンスクールなどの機会に広く活動を周知できるように校内廊下等に活動内容を掲示する。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 ・ 異年齢集団で教え合い活動をすることで、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりすることにより、自他の価値観を認め合う態度を育てる。 ・ この活動が教科目標を達成するとともに、よりよい人間関係が育めるよう生徒の実態に応じたグループ分けや座席配置等の配慮を行う。 ・ ROSE タイムのアンケート結果をもとに、職員研修等でふり返り、改善していく。	
カ 評価の方法 ・ 行動観察 ・ ワークシート、感想〔別紙④、⑤〕	
キ 成果 ・ アンケート調査（別紙②～④）等から、自己肯定感やコミュニケーション能力についての高まりを実感している状況が見受けられ、全国学習状況調査や学校評価アンケートにおける肯定的な評価の向上も見られている。昨年度からの継続した取組による大きな成果だと捉えている。 ・ 成果の具体的な現れとして、チューターは予習をして問題の理解を深め、相手に教えることでさらなる学力の定着が見られた。さらに、相手の目線に立って分かりやすい説明を心がけることでコミュニケーションスキルを高めることができた。また、いつでも質問ができるという学習環境は、STにとって粘り強く最後まで取り組むことができるという安心材料となった。「自分も教える立場になりたい」というチューターへの憧れから学習意欲が高まった生徒も多い。 ・ ROSE タイムをはじめ、各教科の授業においても生徒同士の「教え合い」の場面を設定した。様々な授業でチューターが増えたことは、多くの生徒の達成感や自己肯定感の向上に繋がった。得意を活かし、活躍できる場があることは学校内の生徒の居場所となっている。	

- ・ 令和5年度以降は体育大会などの学校行事においても、「教え合い」の場を設定した。長縄を使った「ROSE ロープ」という生徒会種目を立ち上げ、異学年間での「教え合い」活動を通して交流を深めている。

ク 課題

- ・ 担当教室における教師の支援の在り方について、活動がチューター任せにならないために、問題の解き方や教え方のコツを伝える事前指導の在り方や、よりよい人間関係構築のための支援の在り方等、教師の役割をさらに徹底する必要がある。
- ・ 人間関係に配慮したグループ編成になるように、学年の枠を超えた生徒理解が大切である。
- ・ 各教科においては、担当教員が実践例を参考に「教え合い学習」を活性化するための研鑽に励み、引き続き、生徒が主体的に学習し、活躍できる環境をつくる必要がある。